

白梅学園短期大学

公開講座(20)

2002年5月17日～7月13日

生活の中のカウンセリング(第5回)

— 家族支援とその原理 —

講師：石井哲夫 真仁田 昭 林 潔
岸田 博 平木 典子 各氏

家庭で多発している、人間関係をめぐる問題について、カウンセリングの立場からどのような対処の可能性があるのであろうか。

さまざまな状況に当面している人々に対して、どのような働きかけが可能なのか。心理学の立場でも、周辺領域の知識も関係させながら模索が続けられている。

前回の続き家族支援の問題が今回のテーマである。

5月17日(土) 14時-15時40分

障害児・者支援の立場から

白梅学園短期大学学長 石井哲夫氏

障害児者支援のためには、理解しがたい障害児の本人に対して臨時的な関わりを深めて、支援の基盤を上げることが基本になる。このことは障害児者をもつ親や家族と同じ地平に立つことを意味する。

親としては、わが子の成育の援助に両親以外に第三者が参加することで、その生活の経過の折々に、抑圧されがちな心理的なバランスの回復がなされ支援されるのである。

5月31日(土) 14時-15時40分

教育の視点から

目白大学短期大学部副学長 真仁田昭氏

子どもの問題に見られる特徴として、良い子志向から気まま志向が上げられるが、そこには倦怠感が潜んでいる。そして周囲の教育的姿勢——効率主義とのあつれきが見られる。

それに対して豊かな人間性を育む教育の内容として、手と言葉を仲立ちとした心のふれあい、共鳴し共感し、交響する心とが基本となってくる。

6月7日(土) 14時-15時40分

認知行動療法の視点から

白梅学園短期大学心理学科教授 林 潔氏

認知行動療法は現実を現実として見ようという試みである。このような見方ができなくなったとき、人は自分を追い込みかねない。問題に直面したときに、どこまでが現実か、悩む根拠は何か、本当にそこまで悩まないといけないのか、相手はどういう意図で言ったのだろうか、その時の自分の気持ちをチェックしてみるのも生活の知恵といえる。

認知行動療法のいくつかの方法をご紹介した。

7月5日(土) 14時-15時40分

カウンセリングの視点から

岸田カウンセリング研究所所長 岸田博氏

これからのカウンセリングは豊かな存在へ向かう人間関係の方法論である。母子関係がそのスタートとなる。母親の人柄が豊かになって行く程度に応じて子どもが豊かになってくる。この豊かさがどのように身につき、子どもに伝わって行くのであろうか。

7月13日(日) 14時-15時40分

家族療法の視点から

日本女子大学教授 平木典子氏

毎日接している家族は、問題の種にもあり得るし、頼りでもあり、問題解決の資源を秘めている。それは家族が常に相互作用をしながらお互いに影響しあい、生き延びようとしているからだ。

家族がどのような相互作用をすればより機能的・健康維持的に関わることになるのか、家族カウンセリングの視点から紹介された。

今回の公開講座には266人の参加者があり、盛会のうちに終了した。(林 潔)